



# 2022年度 グリフィンズ便り No.2 VS 慶應ユニコーンズ

## 慶應戦みどころ

3年ぶりにTOP8に戻ってきたユニコーンズ。ワイドに位置するOL陣に守られたQB2人体制でパス、ラン織り交ぜ、的を絞りにくくした攻撃を展開。これまでは前半で#0水嶋魁（海陽高校・2年）が、ラン、パスで時間を使って攻撃し、後半に#15相馬大輝（麻布高校・3年）が、ミドル、ロングとパスを決め、短時間でゲイン。ロングパスがコンスタントに決まっても、モメンタムを持って行かれないよう、グリフィンズディフェンス陣全員で襲い掛かるのが勝負の鍵。立教戦で立教ディフェンスが際どいところでパスインターフェアランスを取られていた。反則すれすれの攻防になることは必至。

グリフィンズオフェンスはただ一つ。点差が開こうとも、3rdロングであろうと、どんな厳しい状況であろうとも、常に攻め続ける。明治のモットー「前へ！」。

学生主体で日々戦術、戦略については、仲間ととことん話をしている。自分を信じ、仲間を信じ挑んだ日大戦。惜しくも敗北を喫したものの、多くの人がチカラ強いチームであると認識し、感動（悔しき含め）したと思う。

ここから先。あの日、東京ドームにフラッグを刺し、マネジャー、スタッフ全員で、とてつもない気迫で入場し、来場者を奮い立たせた、その想いを、勢いを再現し、臆することなく戦うことを願ってやまない。

## ALL IN

～全てを懸ける～

## Road to KOSHIEEN BOWL

今年度は特別編成で、わかりにくいとの声を頂きましたので、こちらをご参照ください

| 順位    |                                   |  |    | 2022最終順位 |                  |
|-------|-----------------------------------|--|----|----------|------------------|
| Top8A | 2次リーグ                             |  |    |          |                  |
| 1     | A1                                |  | B1 | 1        | 東日本決定戦→甲子園ボウル    |
| 2     | A2                                |  | B2 | 2        |                  |
| 3     | A3                                |  | B3 | 3        |                  |
| 4     |                                   |  |    | 4        |                  |
| 5     | 1次リーグの勝敗数に2次リーグの勝敗数が加算され、最終順位が決まる |  |    | 5        |                  |
|       |                                   |  |    | 6        |                  |
| Top8B |                                   |  |    | 7        | BIG8上位2チームと入れ替え戦 |
| 1     |                                   |  |    | 8        |                  |
| 2     | A4                                |  | B4 | 9        | →自動降格            |
| 3     | A5                                |  | B5 | 10       | →自動降格            |
| 4     |                                   |  |    |          |                  |
| 5     |                                   |  |    |          |                  |

### Interview：岩崎恭之監督

＜日大戦・勝敗を分けたポイントを3つあげるとしたらどこか？＞

まずは、17対7となって以降、オフェンスで得点できるところで追加点を取り切ることができず、日本大学の息の根を完全に止めきれなかったところだと思います。

次に、ディフェンス面では、第4クォーターに入ってから、ディフェンスバックが日本大学のパスユニットとの競り合いに負けてしまったことも大きな敗因です。

最後に、キッキングにおいては、複数回にわたり、キックオフリターンでヤードを稼がれてしまい、日本大学オフェンスのスタート地点が悪くなってしまったことで、まだ行けるという雰囲気を与えてしまったことも敗因だと思います。

＜次節慶應戦以降に向けて＞

日本大学には残念ながら負けてしまいましたが、まだ甲子園への道が閉ざされたわけではありません。次節の慶應義塾大学、立教大学、そして法政大学との対戦に全勝し、来る二次リーグの戦いに臨めればと考えています。そのためにも、選手一人ひとりが役割を認識し、意欲と目的意識を持って自発的に「考動」することによって、チーム全体のフィジカル面・精神面の底上げを図ることが必要になります。笛が鳴り終わるまで足をかき続け、グリフィンズらしく、泥臭く一戦一戦大切に戦い、甲子園ボウル出場を目指していきたいと思っています。